

長野県史 通史編

第七
近代一卷

目 次

緒 言 口 絵

例 言

第一章 明治維新と信濃

第一節 民衆と戊辰戦争

一 赤報隊と東山道軍の動き

相楽隊の入信と年貢半減令 信濃の隊員と「偽官軍」事件
信濃諸藩の出兵への動き

二 飯山の戦いと北越への出兵

飯山の戦い 北越への出兵

三 戊辰戦争下の民衆

宿駅・助郷の負担 農兵・軍夫の徵発

第二節 伊那県と諸藩の動き

二五

一 伊那県の設置

二五

幕府領の没収 伊那県の成立 伊那県の統治

三

二 版籍奉還と藩制改革

三

藩治改革 版籍奉還 藩制改革

三

三 信濃県藩連合

三

賈二分金問題 信濃全国通用銭札の發行 駅通制度の改革 政治改革の企図

四 中野県の分置と長野移庁

三

伊那県商社事件 中野県の分置 長野移庁

第三節 世直し一揆の展開

三

一 明治二年の農民一揆

三

村方騒動と村民の要求 飯田二分金騒動 上田騒動 会田・麻績騒動

三

二 明治三年の農民一揆

三

中之条局廃止反対強訴 松代騒動 中野騒動 民衆・県藩・政府

三

第四節 廃藩置県

三

一 信濃諸藩の廃藩置県

三

廢藩置県の動き

龍岡藩の廢藩上表

諸藩の廢藩置県

城郭・城地の処分

二 長野・筑摩両県への統合

長野県の拡大

筑摩県の創設

第五節 民衆の文化と宗教

一 藩校と寺子屋の教育

維新期の藩校教育

私塾・寺子屋の教育

郷学校の設立

二 神仏分離と廃仏毀釈

神仏分離政策

松本藩の廃仏毀釈

九

第二章 長野県の発足

第一節 長野・筑摩両県と統合長野県

一 長野県の行政

長野県の組織と官員

県庁舎の新築

長野県の行財政

一〇〇

二 筑摩県の行政

筑摩県の組織と官員

筑摩県の行財政

県庁舎の火災

一〇七

三 統合長野県の成立

一国一県の長野県

統合長野県の組織と官員

明治十、十一年の長野県会

一一三

明治十一年の長野県

四 警察・司法制度の創始

警察制度 裁判所と県監獄 二九

第二節 戸籍区・大区小区制と町村

三七

一 戸籍区の設定と壬申戸籍

三七

戸籍の編成と戸籍区 壬申戸籍と脱籍・浮浪の取締り 区長・戸長の任命

二 大区・小区制の実施

三三

大区・小区と区長・戸長 村寄合の否定と大区会・小区会

三 大区・小区制下の町村

三四

町村合併の動き 生きている村共同体 民費と町村財政

第三節 地租改正と秩禄处分

四五

一 地租改正と農民

四五

壬申地券の発行 筑摩県の地租改正 長野県の地租改正 地租改正の結果

二 官民境界区分の実施

五一

山林原野の地租改正 官民有区分と民衆 官民有地別林野の実態

三 秩禄处分と土族授産

五六

禄制改革 秩禄处分 士族授産

第四節 身分制・社会生活の変化

一 身分制の解体

四民平等 「穢多・非人解放令」

二 徵兵令と西南戦争

「穢多・非人解放令」

三 徵兵令と西南戦争と長野県

一六三

三 衣食住と生活習俗の変化

一七三

衣食住の生活 生活習俗の開化と不開化

四 病気・災害と公娼制度

一八〇

病気と医療 災害と防災 公娼制度の発足

第五節 学制の施行と文明開化

一 新しい学校制度

一八六

村の小学校 町の小学校 中等教育などの開始

二 新聞・雑誌・書籍の刊行

一九七

『信飛新聞』の創刊 地域ジャーナリズムの形成 新聞・雑誌の縦覧と出版結社

三 国民教化政策とキリスト教

二〇五

教導職の設置と教化運動 講社の結成とその活動 キリスト教の布教

第三章 勸業政策と信州蚕糸業の興隆

二五

第一節 農業と在来工業

- 一 共進会の開催と開産社 二六

共進会と勸業博覽会 開産社の設立

- 二 洋式農法と農業技術 三二

洋式農法の導入と老農技術 農具と農業技術 病虫害の予防

- 三 入会林野と水利 三六

入会林野の利用 農地開発の計画 堤と水利慣行

- 四 在来工業の推移と鉱山の試掘 三五

在来工業生産の変化 特產物の推移 諸鉱山の試掘

第二節 地主の成長と農民

- 一 地主の成長 二四

明治初期の地主 松方デフレと地主 地主と小作

- 二 地主と農村 二四

豪農地主の社会的進出 零細農民と口べらし

第三節 養蚕・蚕種業の発展

一 養蚕業の発展

二六二

全国一の蚕糸県へ 養蚕技術の革新 養蚕業と農家経営 養蚕の村々

二 蚕種業の発展

二七〇

蚕種輸出の展開 蚕種業の発展と蚕種經營 夏秋蚕種の製造と普及

小県郡の蚕種業と同業組合

第四節 器械製糸の発展

一 創始期の器械製糸

二八三

明治はじめの座繰製糸 生糸輸出と流通規制 器械製糸の導入

二 器械製糸の発展

二八九

器械製糸の発展 製糸結社の設立 売込商と製糸金融

三 製糸經營と製糸工女

三〇〇

製糸經營の実態 改良座繰りの進展 製糸工女たち

第五節 商業・金融と交通・通信

一 明治初期の商業

三一

商業の地域的特色 商品の流通 経営の新形態

二 近代的金融機関の成立

三八

県為替方 銀行の創設 銀行の機能と推移

三六

三 交通・通信の整備

新しい運輸組織 通船の発展 道路と橋梁 鉄道敷設の開始
郵便・通信事業の開始

三六

第四章 三新法による長野県統治と信州自由民権運動

第一節 三新法による長野県統治の進展

一 知事体制の成立と県政・県民

長州藩閥知事と長野県政の組織 南北信統合の推進と県政
地方税規則による県財政

三四二

二 長野県会の設立と議員の活動

府県会規則による県会と常置委員会 県会議事堂と県会論議

三四九

三 県警察本部体制と県監獄本署の成立

県警察本部体制の成立 裁判所制度の変遷と県監獄本署

三五二

四 一六郡の設置と郡政の開始

郡区町村編制法と府県官職制 郡編制諮詢會議の開催

三五九

一六郡の設置と郡長の任命 郡長の権限と初期郡政の実態

五 戸長役場と連合戸長役場の行財政

三五六

町村分離の進行 戸長役場から連合戸長役場へ
協議費・町村費財政 町会と連合町村会の開設

第二節 燐匡社の運動と自由党・立憲改進党の結成

- 一 民権結社の活動と燐匡社 三七五
- 二 全国的大自由民権運動への合流 三七六
- 三 地方官会議と県会議員連合 国会期成同盟への参加 国会開設運動の展開 三八四
- 四 自由党・立憲改進党の結成 三九三

自由党準備会と長野県 自由党と立憲改進党 集会条例改正追加と地方政府

- 一 民権結社と政治結社 言論・集会活動と町村会 三九四
- 二 燐匡社の成立 三九五

国会開設論

三九三

- 一 燐匡社の国会開設論 憲法論 三九六
- 二 燐匡社の国会開設論 憲法論 三九七

三九八

燐匡社の国会開設論 憲法論

三九九

第三節 秩父事件・飯田事件と大同団結運動

- 一 自由民権運動の高揚と政党・政社 四〇三
- 二 運動の高揚と全国との交流 愛國正理社と小諸文武館 四〇四

運動の高揚と全国との交流 愛國正理社と小諸文武館

四〇五

- 一 秩父・飯田事件から大阪事件へ 四〇九
- 二 激化事件と秩父事件 飯田事件と民権運動の弾圧 四一〇

四一一

激化事件と秩父事件 飯田事件と民権運動の弾圧

信州民権運動の存続と大阪事件

四一三

三 大同団結運動と移庁・分県運動.....四三

大同団結運動と民権家結集 政社設立と大同団結運動の分裂

移庁・分県運動と民衆運動

第四節 教育令の改廃と民衆文化の諸相

一 教育令の改廃と初等教育.....四二

ゆれる町村と学区 教育費確保のからくり おさえられた自由な教則

二 中等・専門教育と青年の学習活動.....四一

県立の中学校と医学校 能勢栄と県師範学校の改革 学習・討論する青年たち

三 民衆文化・民衆意識の諸相.....四七

民衆芸能や伝統的習俗 ひろがった丸山教 天皇巡幸と民衆意識

第五章 地方自治体制の確立と長野県

第一節 長野県制の施行と県民の参政権

一 府県制による長野県政.....四六

全国にさきがけた長野県制 県民の県政要求と県財政の変質

二 県会・県参事会と政党・県民.....四五

間接選挙の県會議員と党派対立 県参事会の設置と強い権限

三

衆議院・貴族院開設と長野県.....

四六八

衆議院開設と県民の参政権 貵族院多額納税者議員と大地主

.....

四七七

第二節 郡制の施行と郡分合問題.....

一 郡制の施行と郡行政.....

郡制の公布と県民の批判 県の対応と郡界・郡合問題 全国最初の郡制施行
郡制施行期の郡長と郡行政

四七七

二 郡会・郡参事会と郡財政.....

複選制議員と大地主議員の選挙 郡会の発足と役員の選挙
初期郡会の主要議案と審議状況 郡参事会の権限と活動状況 郡財政の概況

四八五

三 郡域と地域住民.....

郡事業と郡民の関心 郡域内的一体感の高まり

四九四

第三節 町村合併と町村自治.....

一 町村合併の推進.....

町村合併案の作成 町村合併の実施と問題点

四九九

二 町村制による町村政治.....

町村委会員と町村長 町村自治と国政委任事務

五〇三

三 町村財政と町村民の負担.....

五〇八

町村財政の膨張と町村民の負担 基本財産の造成

第四節 町村の人口移動と景観の変化

- 一 村の人口と町の人口 五五
- 二 町や村の景観の変化 五三

町のにぎわいと町並みの変化 変わりゆく村の景観

第五節 国家主義教育と社会的文化運動

- 一 新小学校令・教育勅語による初等教育 三二
- 二 学務行政と小学校の整備 「劣等児」と子守の教育 「御真影」と教育勅語 三一
- 三 中等教育の複線化 三〇
- 四 県立中学校支校制 小県蚕業学校の設立 小諸義塾と研成義塾 二九
- 五 社会的文化運動と登山の開始 二八

禁酒・矯風運動 廉價運動 近代的登山活動

第六章 産業革命期の長野県経済の発展

- 第一節 農蚕・水産・牧畜業の進展
- 一 稲作農業と技術 五六
- 二 農蚕 五六
- 三 水産 五六
- 四 牧畜業 五六

農事改良政策 犁の改良と牛馬耕 耕地整理 稲作と肥料

二 蚕業と技術

養蚕業の発展 養蚕講習と技術の向上 蚕種生産と品種の統一・改良
蚕種同業組合と微粒子病毐駆除

三 水産業とその進展

漁業政策と河川漁業 湖沼漁業 鮭養殖の試み 稲田養鯉など

四 畜産・牧畜とその進展

県の政策と牛馬の飼育 産牛馬組合と牛馬市 牧場の開設と經營

第二節 地主制の確立と農会・産業組合の成立

一 地主制の確立

農民層の分解 小作慣行 地主經營

二 農会の成立と農業

農会の組織化 農会と農業生産 町村是にみる農村

三 産業組合の結成と農村

産業組合の結成 産業組合と農業 信用組合と報徳社

第三節 林野政策の展開と木曽御料林

一 林野政策と林野利用

官林と御料林の創設 植林事業の奨励と民有林

二 官有地下戻し運動

六一九

官有地下戻し運動の展開 官有地下戻し運動の実例 社寺地の下戻し運動

六一九

三 木曽御料林問題

六二六

木曽御料林問題の発端 官民有境界改訂哀願運動の展開
恩賜金下付哀願運動への転換 哀願運動の展開と恩賜金の下付

第四節 製糸業の発展と製糸労働者

六二四

一 製糸業の発展

六二四

経営規模の拡大と技術の進歩 匿名組合の設立と県外進出 製糸業発展の地域性

二 生糸同業組合の成立と製糸業

六二四

郡生糸同業組合の結成 県生糸同業組合連合会の結成

三 製糸労働者の実態

六二七

急増する製糸労働者 製糸工場の生活と寄宿舎制度 等級賃金と賞罰制度
製糸同盟の成立と職工登録制度

第五節 交通・運輸の再編成と通信の発展

六二七

一 中央本線・篠ノ井線の開通

六二七

鉄道誘致運動と中央本線の開通 篠ノ井線の開通 私鉄開設への胎動

二 鉄道の開通と県民生活

六二四

交通体系と輸送ルートの変化 鉄道の開通と産業の発展
県民生活への影響と県民の要求

三 道路・河川交通の変化

道路・橋梁の整備 馬車交通と自動車などの登場 河川交通の盛衰

四 郵便・電信の発展と電話の導入

郵便の発展 電信の普及 電話の導入と普及

第六節

商業・金融の再編成

一 商業の発展

経営の進展 取引所の開設 商業会議所の設立 同業組合の結成

二 金融機関の再編成

銀行の増加 銀行機能の分化 庶民金融の実態

第七章 日清・日露戦争と戦間期の長野県

七〇五

第一節 日清・日露戦争と戦間期の県政・郡政・市政

一 県政の展開と直接選挙制の県会

「由々しき自治の大破壊」 直接選挙制の県会と県政 県会政党支配の分断

七〇六

二 県財政の変質と膨張

県税の増大 教育・勧業費の膨張

三 郡制改正と郡会の動向

郡制改正と官治体制の強化 直接選挙制と政党間対立の激化

郡会・郡参事会の動向と郡財政

七七

四 市制施行の動きと長野市政

市制施行への動き 三級選挙制と長野市会 長野市の行財政

七五

第二節 県民の政治運動と政党・普選運動

一 県民の参政権と政党活動

せまい選挙権と政治腐敗 憲政党・立憲政友会と県民
衆議院議員選挙と貴族院議員

七八

二 普通選挙運動の開始と展開

松本普通選挙期成同盟会の成立 労働者大懇親会と大衆的普選運動
初期社会主義の普通選挙運動

七八

第三節 日清・日露戦争と軍事・警察・司法制度

一 日清・日露戦争と町村

七五

日清戦争と町村 日露戦争と町村

七五

二 日清戦争と動員

徵兵令の改正と日清戦争 兵力動員と徵発 戰争の被害と復員

七九

三 日露戦争と動員.....

七七

軍備の拡張と日露戦争 兵力の動員と戦争の被害 松本歩兵第五十連隊の設置

四 警察・司法制度の整備と変化.....

七七

高等警察と治安警察法 警察費・定員と警察活動 弁護士制度の発足
県監獄の廃止と保護事業

第四節 県民生活の変化と社会問題

一 社会生活の変化.....

戸口の変化 暮しの変化 病気と災害 農村と都市の生活

二 日清・日露戦争と県民.....

日清戦争と県民 日露戦争と県民の協力 日露戦争と県民の生活

三 社会問題と社会運動の萌芽.....

社会運動の動き 社会主義の研究活動 社会事業のはじまり

第五節 教育の普及と実業教育.....

一 初等教育の普及.....

八〇八

高等小学校の普及 女子の就学奨励 管理化がすすむ小学校

二 中等教育の展開.....

八五

エリートと良妻賢母 農業学校の陰に 青年夜学から実業補習学校へ

三 教員・教員養成と信濃教育会	八三
村の小学校の教師たち 病める師範学校 「信州教育」と信濃教育会	
四 日清・日露戦争と教育	八九
日清戦争と教育 日露戦争の教育への影響 ある小学校と日露戦争	
日清・日露戦争と青年たち	
第六節 県民の文化活動	八六
一 県内の地域文化活動	
二 県内の出版活動	
三 県内の新聞発行の盛行 県・県内諸団体の出版活動	
三 文学・美術の革新	
俳句・短歌の革新 島崎藤村の新文学 萩原碌山の近代彫刻	
四 国家主義下の宗教界	八九
國家神道の確立と諏訪神社 仏教界の動向と善光寺開帳	
キリスト教の布教と日露戦争	

目 次

あとがき

執筆者名簿

近代担当編纂委員名簿

長野県史編纂関係者名簿

口絵解説

写真・図・表目次